

## わらべうた講座

## こどもの心に灯をともしわらべうた

講師：落合 美知子

(児童図書研究家)

各地で絵本やわらべうたの講座を行っている落合先生にわらべうたの実践を交えながらお話いただきました。

## はじめに

多くの図書館や子育て支援の場でわらべうたが取り入れられています。今、なぜ、わらべうたが必要なのか？実践しつつ、楽しみながら感じ取っていただく講座です。

## 乳幼児が初めて出会うことば

絵本『だくちるだくちるーはじめてのうた』(V・ベレストフ原案 阪田寛夫文 長新太絵 福音館書店)を読んでもみると、人間が生まれる前のお話なのに、今日の無機質な機械音に囲まれている環境に通じるものがあります。わらべうた、子守唄は、子供が生まれてはじめて出会う肉声のうた。心地よいリズムカルなことばです。歌って遊びながら、自然に人と人とのコミュニケーションがうまれることを実感してみましょう。

♪「うちのうらのくろねこは」黒猫の人形で。

♪「おちゃをのみにきてください」で挨拶。

♪「ひらいたひらいた」、♪「あんたがたどこさ」応答で歌う。

♪「おてぶしてぶし」当てっこ遊び。

皆さんがみるみる笑顔になりました。赤ちゃんもわらべうたでことばのリズムを楽しみ、能動的に関わって五感を働かせます。肉声やまなざしから愛情を感じ取って、触れ合い遊びがことばの獲得に繋がっていきます。



## わらべうた、子守唄は

子供が自ら歌い子供から子供へ、また、大人に歌ってもらいながら伝承してきたうた(唱えのことばも含む)。母語の特性があって、遊び(身体性)を伴い、鼓動のリズム、日本の伝統音階(5音階)で、地域性が織り込まれています。

わらべうたには、詩としての「マジック・アンド・ミュージック」(ハーバート・リード)『幼い子の文学』(瀬田貞二著 岩波書店より)があり、ことばに不思議な力があります。

## おはなし会のわらべうた(実践)

乳幼児おはなし会の対象は、子供と保護者です。保護者の方がお家でも出来るようにわらべうたを手渡ししましょう。出来れば毎回同じ担当者だと子供たちは安心しますが、無理な時は、同じ人形やわらべうたで繰り返しがあると馴染み易いでしょう。では、子供と保護者の立場に立ってわらべうた(絵本)のプログラム(一例)を楽しんでみましょう。

## &lt;導入・はじめのわらべうた&gt;

この袋の中にだれか寝ています。起こしてみよう。♪「ととけっこう」(3回以上)くまの指人形が起きてあいさつ♪「おちゃをのみにきてください」、詩「くまさんのおでかけ」♪「このここのこ」で抱っこして揺する。♪「おさらなたまごに」でじゃんけんして、親子の役割を決めてから実践しましょう。



### ＜抱っこ、お膝で＞

♪「ここはとうちゃん」で子供の顔、目をみてくすぐり遊び、♪「おふねはぎっちりこ」で舟をこいでお出かけ、♪「ぎっちょぎっちょ」でおやつ作り。♪「ぼうずぼうず」名前を入れて呼んであげましょう。

♪「にぎりぱっちり」両手を合わせて振り、ピョピョと開く。見えない世界を想像します。

### ＜布遊び、ごっこ遊び＞

♪「えんやらもものき」で布を配る。

♪「じーじーばー」でいないいないばあ遊び。

♪「たんぼぼ」布を飛ばして遊ぶ。

♪「もちっこやいて」、♪「ももやももや」、

♪「おてんとさん」で布を干してたたむ。

### ＜季節のわらべうた＞

♪「うえからしたから」、♪「こどもかぜのこ」、♪「おせよおせよ」、♪「ひらいたひらいた」、♪「いもむしごろごろ」で他の親子と触れ合い、赤ちゃんも抱っこで動くと視界が広がります。

### ＜終わりのわらべうた＞

♪「くまさんくまさん」、♪「おやゆびねむれ」指を一本ずつ折って寝かせて、安心したところで、しめくくりの絵本を読みます。

『おつきさまこんばんは』（林明子さく 福音館書店）・『かばくん』（岸田衿子さく 中谷千代子え 福音館書店）♪「さよならあんころもち」でおはなし会はおしまい。

おはなし会には、入口と出口があり、全体がものごとです。乳幼児のおはなし会では子供が求めるもの＝抱っこ、目を見る、肉声

の触れ合い、一緒に遊ぶ＝などの体験がわらべうたで出来るようにしましょう。そのためには子供へのまなざしが大切です。

### 絵本とわらべうたの共通性

乳幼児は、詩「ミルクをのむとぼくになる」（『おはなしだいすき』与田準一ほか編 童心社より）のように食べたもの、体験したことなどを五感で吸収してこれから生きていく土台作りをしています。また、絵本『でてこいでてこい』（林明子さく 福音館書店）、『がたんごとんがたんごとん』（安西水丸さく 福音館書店）のように素朴で具体的なことばや絵、リズムの良いことば、反復などを好みます。乳幼児向けの優れた絵本には、わらべうたと共通した文学の特徴（ことば、型・スタイル、リズム）があるからです。図書館のおはなし会にわらべうたが取り入れられて、本に繋がっていく様子がみられます。

### おわりに

わらべうたで遊ぶと人と人の触れ合いや季節の移り変わり、他の生き物とのコミュニケーションが生まれます。♪「ほたるこい」、♪「めんめんたまぐら」などで。わらべうたはことばの獲得や読書の基盤になるでしょう。

公共図書館は赤ちゃんから老人までが利用できる生涯教育の場です。心の自由は侵されません。幼い時からわらべうたや絵本を楽しく体験して愛されたことは、意識下（無意識）に浸透し、次の世代に繋がっていきます。子供たちの生きていく力になりますように、これからもわらべうたで心に灯をともしましょう。

♪「さよならあんころもち」最後にみんなでお土産にあんころもちを作って笑顔で終了！

### ＜参考図書＞

『子どもの心に灯をともしわらべうた』、『いい家庭にはものがたりが生まれる』（落合美知子著、エイデル研究所）（記録 山元明美）